

令和4年5月10日 佐藤

～ 世界で困っている人たちのために今できることは何だろう ～

墨田区立吾嬬第二中学校の生徒がユニセフ募金活動を行いました！

本日、令和4年5月10日（火）朝の登校時に、墨田区立吾嬬第二中学校の生徒会役員とボランティア防災部員により、校内でユニセフ募金活動が行われた。

同校における募金活動は、「自分たちに何かできることはないか」と考えた同校の生徒からの発案により実現し、20年以上前から実施している。毎年、生徒によるアイデアが詰まった活動を行っており、同校の開校75周年の記念日でもある5月10日の活動では、9,746円の募金が寄せられた。

今年度は、「わたしたちの持続可能な未来のために世界の子どもに希望のパス！」をテーマに掲げ、募金活動を行った。校内に掲示するポスターのスローガンなども生徒たち自身で考え、在校生への募金の呼びかけも行った。

なお、今回の募金活動は、5月15日（日）の同校75周年記念運動会当日まで引き続き行われる予定。運動会当日は、保護者や地域の方にも募金を呼び掛ける。なお、13日（金）に集められた募金については、ウクライナ人道危機救援金として日本赤十字社に寄付される。

参加した生徒会役員とボランティア防災部員たちは、マスクと手袋を付け、新型コロナの感染予防も徹底した。初日の活動を終えて、生徒会長の3年生 山根望央（やまねみひろ）さんと、ボランティア防災部長の3年生山田美智花（やまだみちか）さんは「世界の子どもたちが置かれている環境や、ウクライナの現状をニュースなどで見て、何か少しでも力になりたいと思い、募金活動を行おうと思った。生徒やその家族、地域の方々など多くの方が協力してくれて、とてもやりがいがある活動になった。明日からの活動も頑張りたい。」と話した。

吾嬬第二中学校の駒田るみ子校長は、「マスク越しではあるが、子どもたちの熱意を感じることできて大変嬉しい。生徒からの発案で実施してきたことが、今も続いていることにとても意味があると考えている。世界で困っている子どもたちに元気を届けることはもちろん、今回は「平和」もキーワードにしている。開校間もない昭和26年度の運動会でも入場門に「平和」と記されており、改めて平和の意味を考えるきっかけとなった。この募金活動から生徒たちが自ら課題に気づき、よく考え、実行する力をさらに養ってほしい。」と話した。

掲示物（書道部作成）



募金活動の様子1



募金活動の様子2



集合写真



校内の掲示物



昭和26年度運動会の様子



《開催概要》

日 時：令和4年5月10日（火）～15日（日）午前8時10分～午前8時30分
日本赤十字社ウクライナ人道危機救援金の募金活動は、13日（金）同時刻に開催
5月14日（土）は除く

場 所：吾嬬第二中学校正面玄関

参 加 者：生徒会役員6名、ボランティア防災部員5名

目 的：1．ユニセフ活動及びウクライナ人道危機への募金を呼び掛ける。
2．思いやりの心を育て、社会参画の意識や社会連帯の自覚を高める。
3．生徒自らが課題を見だし、その解決方法について合意形成を図り、協力して目標を達成することを通して、自主的、自治的な社会集団を形成する。

《問 合 せ》墨田区立吾嬬第二中学校 副校長 山崎二郎 3617-2180

お問合せは、午後5時までをお願いいたします。（広報広聴担当 5608-6220）

《学校概要》

墨田区立吾嬬第二中学校 校長 駒田るみ子（墨田区八広4-4-4） 生徒数285名

昭和22年に開校し、卒業生総数は、14,300余名に上る。

伝統的に、学習指導の重視、生活指導の徹底を基本とし、生徒一人一人が生かされ、所属感・存在感のもてる学年・学級経営を進めている。特に「挨拶は心を開く第一歩」ということから、挨拶運動に力を入れており、気持ちよい挨拶が学校を包んでいる。なお、同校は東京都人権尊重教育推進校にも選定されている。